

## SATREPS「コロンビアにおける地震・津波・火山災害の軽減技術に関する研究開発」津波シミュレーション関連の研修を実施しました（2017/2/18-21）

テーマ：津波災害、津波シミュレーション、建物被害関数  
場所：コロンビア・ボゴタ市、コロンビア自然科学アカデミー

2017年2月18日から21日にかけて、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）「コロンビアにおける地震・津波・火山災害の軽減技術に関する研究開発」の一貫として、津波シミュレーションに関する研修が開催されました。本プロジェクトでは、越村俊一教授（災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野）が津波グループのリーダーを務めています。会場となったコロンビア自然科学アカデミーには国立コロンビア大学の学生、コロンビア海洋機構の職員等が集まり、同グループメンバーの村尾修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）、Mas Erick 准教授（災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野）が講師として参加しました。研修では、津波による建物の脆弱性評価に関する講義、津波シミュレーションを用いた建物被害想定手法に関する演習等が行われました。村尾教授は、“Methodology for Damage Estimation due to Tsunami Using Fragility Curve”と題して、津波に対する建物被害関数の利用法について説明し、また被害関数の策定過程について解説しました。そして、実際の都市の建物データと被害関数を使ってどのように被害建物数を想定するのかを理解するための演習を行いました。Mas Erick 准教授は、“A Review on Inundation and Evacuation Maps Formats and Standards for Future Discussion”と題して津波避難マップの作成と標準化について解説しました。

また、Mas Eric 准教授、川崎浩司氏/葉娟氏（株式会社ハイドロソフト技術研究所）を主体としたワークショップが開催され、コロンビア国内で津波リスクの高い Tumaco における津波対策について活発な意見交換を行うことができました。



村尾教授による講義



マス准教授主導による議論の風景



演習課題の実施風景



研修会参加者集合写真

文責：村尾修（地域・都市再生研究部門）